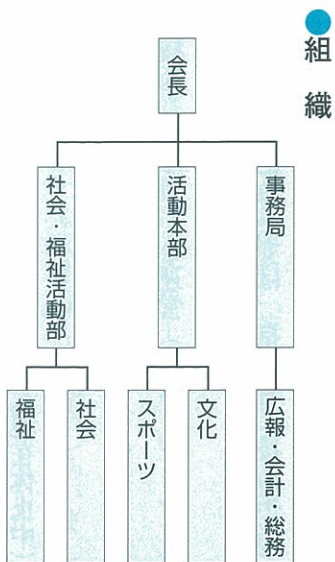


これからのクラブづくり

—単位クラブの活性化、若手組織の設置



●クラブ発足の経緯
昭和53年に設立された老人会は、会員・役員の高齢化により諸活動が停滞。そこで平成12年に「老人会」のあり方を検討する集会を行い、同年9月に会を発展的に解散しました。自治会を中心にアンケート調査などを実施のうえ、11月に現在の「桂山クラブ」が設立されました。

当初19名6名の会員は毎年増加して、現在492名（男性48%、女性52%）、平均年齢70歳です。

桂山クラブの組織と活動
地域は、昭和の時代に開発された団地で、住民の新陳代謝が少ない地域です。
湘南桂台自治会・1600世帯
人口約4千人、高齢化率30〜33%

クラブを目標としたいと考えています。



歌を楽しむ会（横浜市栄区 桂山クラブ）

- 活動
- スポーツ部（10サークル）
 - ハイキング ○ウォーキング ○ゴルフ
 - ソフトボール ○卓球 ○ゲートボール
 - 太極拳 ○水泳 ○シニア健康体操
 - ヨガ
 - 文化部（14サークル）
 - 料理 ○絵画 ○書の会
 - 史跡めぐりの会 ○麻雀交友会

- 老人クラブ活性化のために
- 1 老人クラブの魅力を高める
 - ①名称の変更
「老人会」を「シニアクラブ」に。
 - ②クラブの理念を掲げる
会に参加することに誇りをもとう。
 - ③「桂山クラブの理念」
○遊ぶ ○学ぶ ○仲間づくり
○健康づくり ○社会奉仕 ○地域交流
④選択の自由、参画の楽しみ（カフェテリア方式）
 - ④ 同好の士が10人以上集まれば、サークルを設置できる。会員数増加に効果あり。
 - ④ 知ってもらおう（広報活動）
- ※例え、ハイキングは回を重ねると会員のレベルがあがる。今後の課題として、新しく参加する人のために、初心者向けサークルを設置することがある。
- ※トーキングサークルの活動内容は、体育（筋力体操など）、音楽（カラオケなど）、社会（例えばTTPPなどの時事解説）で、誰でも参加しやすいメニューである。

これからのクラブづくり

—単位クラブの活性化、若手組織の設置

老人クラブは、地域ごとに結成されている単位老人クラブの活動が基本です。本誌では、クラブを活性化させて会員が増えている横浜市の老人クラブ、現在進めている「老人クラブ活性化3か年計画」で掲げた、若手会員による組織を結成した福岡市の区老連の取り組みを紹介し、両活動は、全老連が主催する都道府県・指定都市老人クラブリーダー中央セミナー（東京、6月7・8日開催）において発表されたものです。

なおセミナーでは、東日本大震災による原発事故で避難を余儀なくされている福島県の参加者から、仮設住宅・借り上げ住宅で新た

多彩なサークル、リーダーの役割分担で活性化

—横浜市栄区 桂山クラブ

発表者 前会長、栄区シニアクラブ連合会副会長 竹谷康生

老人クラブ会長に期待されていること

老人クラブを会社に例えれば、「顧客」は会員と適齢期の未加入者です。「顧客」である会員の求めていることは何でしょうか。楽しみながら活動し、社会の役に立っていると認められる居場所、出場所があること、誇りを持って生きられる場があることではないでしょうか。この求めに答えていくことが老人クラブの使命だと思っています。



65歳の平均余命は、男性18年、女性22年と大きく延び、65歳までの余暇時間とその後余暇時間は同じ長さです。しかし会員は減少傾向が続いています。自分たちの現状把握をして目標を定めることが必要です。60歳以上の20%以上が参加して、平均年齢75歳以下といった元気がある老人ク

に立ち上げたクラブの発表もありました（本誌5月号13頁参照）。60代の会員も多く参加した新しいクラブで「健康活動など、皆が楽しんで参加できる活動を数多く行って、不自由な避難生活に明るさを取り戻したい」と結ばれました。また仙台市の参加者は、「震災当日、すぐに自転車で会員全員の家を回り、よく来てくれたと喜ばれた。今、大事なのはそういう人と人のつながりである」と発言されています。仲間づくりというクラブの原点を大切に、さらに活性化に取り組んでいきましょう。

